

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 NPO法人ABCジャパン

1 事業の趣旨・目的

学校の中で母語を活かして活躍する学習支援サポーターが日本語指導の基本的なノウハウを身につけることで、外国につながる児童生徒のサポートの質を向上し、より効果的な教育支援を行う。

また、学習支援サポーター同士が協力して講座の企画・運営に関わることで、スキルアップや学校との協力関係構築につながるようなネットワークを拡げる。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月17日	(有)インフォジャパン	石原、渡辺、安富祖、富本	今年度のスケジュール	会議および講座の予定 講師候補の検討 支出方法の確認 教材の検討
7月30日	(有)インフォジャパン	石原、渡辺、安富祖、富本	講座の企画の調整	講座内容の確認 講師依頼・連絡調整の分担 広報について
9月13日	(有)インフォジャパン	石原、渡辺、安富祖、富本	講座開催予定について	海外ゲストへの講演依頼について 教材の購入
11月13日	(有)インフォジャパン	石原、渡辺、安富祖、富本	講座の進捗について	講座の進捗状況 追加教材の検討
11月1日	(有)インフォジャパン	石原、渡辺、安富祖、富本	講座の進捗について	講座の進捗状況 鶴見国際交流ラウンジ開設について 区役所との連携について
3月7日	(有)インフォジャパン	石原、渡辺、安富祖、富本	開催講座の振り返り	講座の評価 来年度の事業についての検討

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名 学習支援サポーター・バイリンガル指導員のためのスキルアップ講座

(2) 養成講座の目標

母語を活かして学校や地域で外国につながる児童生徒をサポートするサポーターが日本語指導の基本的なノウハウを身につける。また、家庭環境等についての理解を深め、学習面および生活面の課題を知ることでサポートの質を向上し、効果的な支援につなげる。

(1) 受講者の総数 30人

(出身・国籍別内訳 ブラジル10人、日本8人、ペルー7人、中国3人、ポリビア2人)

(2) 開催時間数(回数) 36時間 (12回)

(3) 参加対象者の要件

主に横浜市鶴見区内で外国につながる子どもの学習支援等のサポート活動に参加している、または参加予定であること

(4) 受講者の募集方法

鶴見区に登録する学習支援サポーターに対する広報、つるみ学習支援教室等の学習支援活動に関わるボランティアに対するメールによる情報配信、鶴見区内の小中学校で外国につながる子どものサポートに関わる個人・団体に対する呼び掛け等を行い広報を行った。

(7) 研修会場 (有)インフォジャパン

(8) 使用した教材・リソース

講師が用意した資料のコピーを配布。各講座に関連する書籍を購入し、講座後に教材活用の意見交換を行ったほか、ABC ジャパン事務所内に設置し、貸出を行った。

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
5月28日 14:00～17:00	子どもと保護者に向き合う	藤本フアンカルロス (ペルー出身、学習支援サポーター/通訳)	30人
6月26日 17:00～20:00	外国につながる子ども達の高校進学	笹尾 裕一 (多文化共生教育ネットワーク かながわ)	26人
7月7日 17:00～20:00	外国につながる高校生と向き合っ	山本知子 (神奈川県日本語指導協力者)	19人
7月17日 13:00～16:00	子どもの日本語教育	谷啓子 (東京女子大学)	24人
9月19日 13:00～16:00	外国につながる子どもの大学進学	和久 仁美 (横浜 SMC 予備校)	20人
9月19日 16:00～19:00	日本の大学進学入試制度	近藤大地 (横浜 SMC 予備校)	20人
9月25日 13:00～16:00	バイリンガリズム	木村佑子 (神奈川大学)	18人
11月23日 13:00～16:00	当事者運動を支える	ジョゼ・アウジ・リマ・フィーリョ	20人
11月23日 16:00～19:00	当事者2世のエンパワメントと教育	オタヴィオ・マシャド	20人
1月7日 10:00～13:00	だから生きるんだ	具志アンデルソン飛雄馬	30人
2月10日	ドキュメンタリー映画上映と意見交換	宮ヶ迫ナンシー理沙	30人
2月14日	南米出身の子ども達の日本語教育	富本潤子	21人

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

毎回、参加者同士で感想や意見を共有する時間を設けた。講座内容については満足度が高かったが、時間が足りない、同じテーマを複数回取り上げ、内容を掘り下げたい、との意見が寄せられた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

他県や海外からのゲストの訪問時期に合わせて講座を開催することができ、有意義な内容の講座を行うことができたが、当初予定していた講座内容で依頼を予定していた講師の話も聞きたいとの声が多いため、委託事業以外で小規模な勉強会を開催した。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

2011 年度も学習支援サポーター制度が継続して実施されるため、今回構築することのできたネットワークを活用し、さらなる外国人支援体制の充実につなげていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

鶴見区役所が運営している学習支援サポーター制度や、鶴見学習支援教室と連動して講座を実施することができたため、広報などをスムーズに行うことができた。

また、大学単位で鶴見区内で学習支援活動を行っている大学生にも声をかけることができ、横の連携を深めることができた。

② 研修後の人材活用

今回の講座開催をきっかけに、学習支援サポーターに新たに登録した参加者や、学習支援教室に参加するようになった人もいるため、諸活動がさらに盛り上がるようにコーディネーションをすすめていきたいと考えている。

(12) 今後の課題

学習支援教室や学習支援サポーターは外国につながる児童生徒の支援には非常に役立つ制度であるが、ボランティアが前提となっており、能力ややる気のある人材をつなぎとめておくのが難しい。行政や教育委員会で、母語ができる人材をきちんと養成し、雇用を創出できないと、いつまでも無償の活動に頼っていると質の低下につながると危惧している。

2010年度 生活者としての外国人のための日本語教育事業

日本語指導者養成

記録写真



第1回「子どもと保護者に向き合う」



第2回「外国につながる子ども達の高校進学」



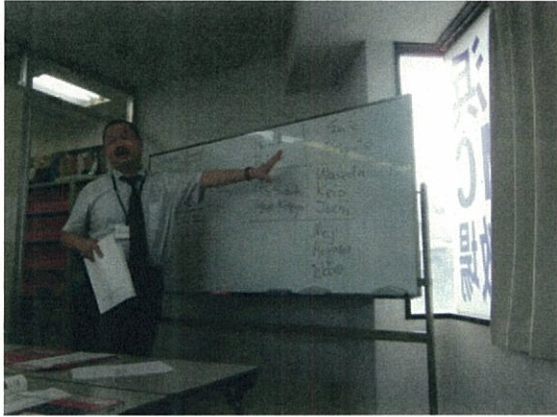
第3回「外国につながる高校生と向き合って」



第4回「子どもの日本語教育」



第5回「外国につながる子どもの大学進学」



第6回「日本の大学進学制度」



第7回「バイリンガリズム」



第8回「当事者運動を支える」

第9回「当事者2世のエンパワメント」



第10回「だから生きるんだ」



第11回「ドキュメンタリー映画上映と意見交換」